

えがお

上尾市富士見小学校 保健室
ほけんだより【親子で読みましょう】
令和6年10月4日 No. 6

ようやく朝晩は、冷え込むようになり、秋も深まってきました。秋といえば、スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋、芸術の秋・・・といろいろなことを始めるのに、とてもいい季節です。ただ、こうした季節の変わり目には、体調をくずす人もよく見られます。体調管理をしっかりして、実りの多い秋にしてください。

10月の保健目標 目を大切にしよう



富士見小 視力が0.9以下(B. C. D)・眼鏡使用の児童～R6. 4月検査結果～

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	全校男子	全校女子
19人 (25%)	20人 (23%)	28人 (32%)	40人 (39%)	42人 (42%)	48人 (42%)	91人 (33%)	106人 (36%)



学年が上がるにつれて、視力低下の児童が増える傾向にあります。授業中、黒板の字が見えにくくなったときは、席を前にしてもらるか、眼鏡をかけるようにしましょう。目を細めたりして無理に見ると、目がとても疲れます。

また、前がみが長いのも、視界がさまたげられるため、目が疲れる原因になります。(ちらつき現象)なお、成長期は、視力が低下しやすい時期なので、**0.9以下(B. C. D)の人は、一年に1度は眼科でみてもらいましょう。**

10月2日現在で、まだ、**27人(15%)の人が受診していません。**
この人たちについては、休み時間に視力検査を行い、再度お知らせします。早めに受診しましょう。

マイコプラズマ感染症に注意！

2学期から、咳を主症状とした細菌性肺炎であるマイコプラズマ感染症が増えている状況です。**咳が続く場合は、受診するようにしてください。**なお、**咳が出る場合は、マスクを着用し、予防は、手洗い・うがい、咳エチケット、規則正しい生活が重要です。**

【病原体】肺炎マイコプラズマ

【潜伏期間】主に2～3週間(1～4週間)

【感染経路】飛沫感染、接触感染

【症状・予後】咳、発熱、頭痛等のかぜ症状がゆっくりと進行し、特に咳は徐々に激しくなる。
中耳炎・鼓膜炎や発疹を伴うこともあり、重症例では呼吸困難になることもある。
治療は適切な抗菌薬で行う。



10月は、4、11、18、25日(金)に衛生検査を行います。

項目はハンカチ・つめ・ティッシュです。保健室で手当てをしていると、つめがのびているお子さんが見られます。「日曜日はつめを切る。」など、曜日を決めて切る習慣をつけるように、御家庭でもお子さんに声かけをお願いします。

ふくろう先生からのお願い

目の健康のために みんなにお願いがあるよ



できるだけ外で遊ぼう!

外で過ごすときと近視になりやすいと言われているよ!

熱中症や紫外線などへの対策も忘れずにね!



長い時間、近くを見続けしないでね!

明るい部屋で

暗いときは明かりをつけてね



近くで見ない

本や画面を目から
30cm以上離してね



時々きゅうけい

30分に1回は体を動かそう!



こんなことがあったら、おうちの人に伝えてね!

黒板の字が見えにくい

目を細めないとき
遠くの文字が読みにくい

ぼやけて見えたり
かさなって見えたりする





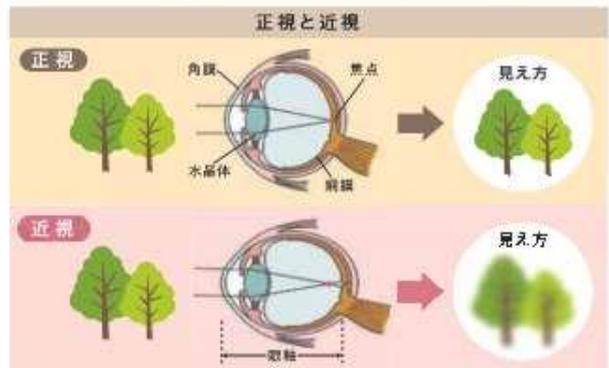
近視の要因とリスク

▶ 近視は、将来の目の病気との関連が大きいことが分かってきています。

近視のほとんどは軸性近視であり、軸性近視とは「眼球の形が前後方向に長くなって、目の中に入った光線のピントが合う位置が網膜より前になっている状態」で、近年、子供の近視は世界中で増加しており、特にアジアの先進諸国では多い傾向にあります。

右下の図は、近視度数ごとに、目の病気が起こることとの関連について示したオッズ比^{※3)}です。子供たちが生涯にわたり良好な視力を維持するためには、小児期に近視の発症と進行を予防することが極めて重要です。

※3 オッズ比とは、ある因子がある病気の発症に関連する程度を表す指標で、大きいほど関連性が強いとされます。なお、オッズ比は何倍病気になるやすいということの意味するものではありません。



近視度数と眼疾患のオッズ比			
近視度数 (単位: D)	後囊下白内障	緑内障	網膜剥離
弱度近視 (-0.5≧SE>-3.0)	2倍	2倍	3倍
中等度近視 (-3.0≧SE>-6.0)	3倍	3倍	9倍
強度近視 (-6.0≧SE)	5倍	3倍	13倍

Haarman AEG, et al. 2020を基に作成 SE: 等效球屈光度

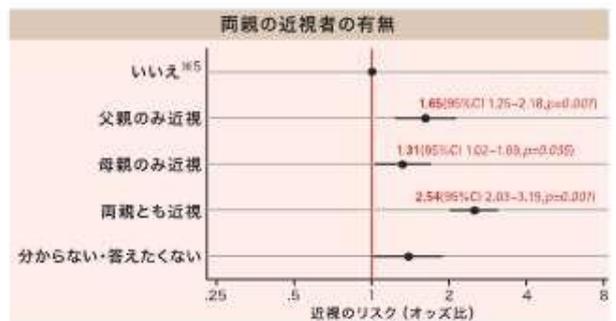
▶ 近視は、遺伝要因と環境要因の両方が関係すると言われています。

近視は、遺伝要因と環境要因の両方が関係すると言われていますが、近年の近視の増加は、環境による影響が大きいと考えられています。

近視実態調査では、どちらか一方の親が近視である場合、両親とも近視ではない場合と比べ、近視の新規発症^{※4)}との関連が大きいことが示唆されました。

一方、環境要因として屋外で過ごす時間の減少や近業(近い所を見る作業)の増加等が指摘されています。

※4 近視実態調査における「近視の新規発症」とは、調査開始年度に近視の定義に該当しなかったが、調査最終年度に同定義に該当したことをいいます。



※5 「いいえ」とは、両親とも近視ではないことを意味します。
[注] 解析について、学年以外の因子は考慮されていないため、留意が必要です。

❗ 親が近視であったとしても、その子供が必ずしも近視になるとは限らず、適切な環境で生活することが大切です。また、親が近視であることで、差別やいじめ等が生じることのないよう、注意が必要です。

(注) 本資料は、現時点における科学的知見に基づき作成したものであり、今後、研究の進展に伴い、知見が変更される場合があります。



視力低下や近視の
予防にできること①

屋外で過ごすことを増やしましょう。

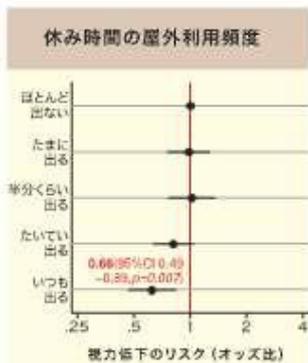


▶ 学校の休み時間では、積極的に屋外で過ごしましょう。

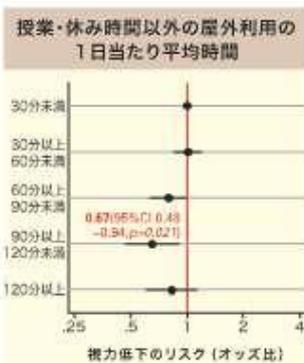
▶ 学校の授業や休み時間以外では、1日1時間半は屋外で過ごしましょう。

近視実態調査では、「短い休み時間でも、出られるときはいつも外に出る」場合、「ほとんど外に出ない」場合と比べ、視力低下^(※6)との関連が小さいことが示唆されました。

※6 近視実態調査における「視力低下」とは、調査開始年度に裸眼視力Aだったが、調査最終年度に同B、C又はDであったことをいいます。



近視実態調査では、学校の授業や休み時間以外で屋外にいる時間(登下校の時間は含みません。)が「90分以上120分未満」の場合、「30分未満」の場合と比べ、視力低下との関連が小さいことが示唆されました。



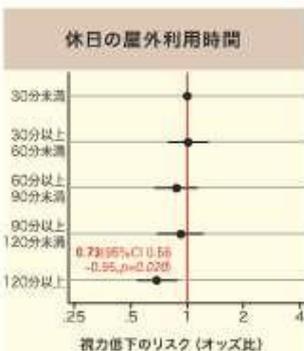
(注)各層群について、学年以外の因子は考慮されていないため、留意が必要です。

▶ 休日では、1日2時間は屋外で過ごしましょう。



近視実態調査では、休日において屋外にいる時間の1日平均が「120分以上」の場合、「30分未満」と比べ、視力低下との関連が小さいことが示唆されました。

❗ 屋外で過ごすに当たっては、熱中症や紫外線などの影響にも配慮する必要があるため、強い光を避け、なるべく木陰や建物の影で過ごすようにしましょう。



(注)層群について、学年以外の因子は考慮されていないため、留意が必要です。

よくある質問

Q. 建物の影や木陰で過ごしても、近視予防に効果はある？

A. 効果があります。直射日光の当たらない建物の影や木陰でも、近視予防に必要な光の明るさ(照度として1,000~3,000ルクス以上)を確保することができます。日差しの強い場所では、熱中症や紫外線などの影響にも配慮する必要があるため、木陰などで過ごすようにしましょう。

Q. 屋外活動は、1日2時間に満たなくてもよい？

A. 複数の研究結果から、1日2時間以下の屋外活動でも近視の進行抑制に効果が得られる可能性が示唆されています。このため、1日2時間に満たなくとも、なるべく多くの時間を屋外で過ごした方が、近視抑制の観点からは望ましいと考えられます。



(注)本資料は、現時点における科学的知見に基づき作成したものであり、今後、研究の進展に伴い、知見が変更される場合があります。

視力低下や近視の
予防にできること②

できる限り、近い所を見る作業は短くしましょう。

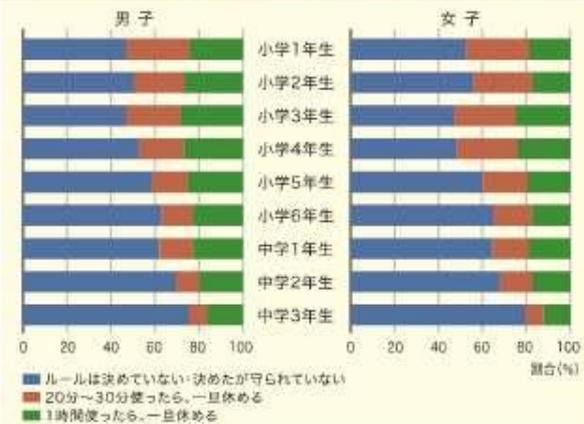
▶ 長時間の近い所を見る作業に気を付けましょう。



近視実態調査では、学校以外での電子機器の利用について、一律に視力低下や近視の新規発症に関連が大きいとはいえませんでした。しかし、「勉強や読書の時間」についての結果も踏まえると、視力低下や近視の新規発症の予防には、「長時間の近業に気を付ける」ことが重要です。

一方、スマートフォンやゲーム機使用に関する「目を休めるためのルールの有無」については、半数～7割以上の児童生徒が「ルールは決めていない・決めたと守られていない」ことが把握できました。近視の発症や進行の予防のためには「自分の目は自分で守る」という意識を持つことが重要です。

スマートフォンやゲーム機使用に関する目を休めるためのルールの有無



▶ 近い所を見る作業を行う際は次のような点に気を付けましょう。



- 対象から30cm以上、目を離す
- 30分に1回は、20秒以上目を休める
- 背筋を伸ばし、姿勢を良くする
- 部屋を十分に明るくする
- 使用する機器の輝度(明るさ)を適切に調節する

よくある質問

Q. 子供の近視は、何歳から
気を付ければよい？

A. 小学校入学前の、なるべく早い時期から気を付けましょう。近視の多くは小学校3～4年生頃に発症します。しかし、最近は低年齢化が進み、早い場合は6歳未満で近視になることがあります。年齢が上がるにつれて近視は進行する傾向にあるため、予防は早めに取りかかりましょう。



Q. 近視は治せる？
一度低下した視力は回復できる？

A. 治るものと治らないものがあります。目の使い過ぎによる一時的な近視状態は、目薬などで治療できる場合があります。しかし、近視による視力低下は主に軸性近視です。一度伸びてしまった眼軸長を元に戻すことはできないと言われているため、近視は予防や早期発見がとても重要です。検査で視力低下や近視を指摘された場合は、早めに眼科を受診しましょう。

(注) 本資料は、現時点における科学的知見に基づき作成したものであり、今後、研究の進展に伴い、知見が変更される場合があります。